

柏原市が社会保険庁から買い取った「サンヒル柏原」は、赤字が解消されることなく、閉鎖になることが決まった。食事部門の委託業者への優遇、高すぎる光熱費など何も解決できず、市に支払うべき家賃を滞納したまま結局赤字を市が補填することで「経営の大失態」という無残な結果の終わるのか!

5年前に「このままではツラレル」と理事たちの発言が議事録に!

結局赤字を解消できず、税金を投入、すべてが市民の負担!

前市長岡本氏「儲かる」と豪語したが? 結果に責任を持つべきである。
中野市長も譲渡されたからには責任がある!

平成21年10月1日、会社ダイナックが取得一般財団法人柏原市健康推進団体と株式契約書及び覚書によ

サンヒル柏原の失敗

- ① 買取価格の失敗
- ② 経営の失敗(委託料等)
- ③ 不透明な光熱費等の失敗
- ④ 素人集団であった

と、廃芥処理費用、定期清掃費用、送迎バス、販促・広告、宣伝費用、全体運営費用すべてサンヒル柏原が負担。財団が家主なら株式会社ダイナックはテナントである。テナントが廃芥処理費、水道代、光熱費など支払うことが世間一般では常識である。ガス代だけにというあまりにも不自然である。

平成22年3月に、サンヒル柏原1階の大会議室で、前市長岡本氏と評議員総会が開かれた。「このままでは2年持たない」「このままではツラレル」と理事達からの発言がありながら5年間も赤字を放置した財団、市も知りながら放置していたのである。一般企業ならすでに倒産している。中野市長は「責任の所在はつきりしていないの

柏原3大赤字(サンヒル柏原、竜田古道の里山公園、市立病院)の一つついに「サンヒル柏原」閉鎖か!?



で、責任追及できない」と答えていた。見張り番でたびたび赤字続きのサンヒル柏原を追求してきたが、市からは財団であるのという答弁しか貰えなかった。土地購入費、テニスコートやプールの改修費、財団への未払金6千万円以上。一般市民では一生かかってもなかなか得ることのできない7億円以上のお金が必要である。演説議員は、今後について最悪で追及するつもりである。

平成25年3月就任した中野市長が朝日新聞のインタビューでサンヒル柏原が経営に大きな課題を抱えており、財政は危機的な状況だ。このまま赤字補填を続けて市民の理解が得られるのか、それとも民間への売却や廃止を断るべきか、政治的判断が必要とされている。

と答えている。その件で日本共産党橋本議員が2億6千万円で売るというわきまの出ていると厳しく追求した。中野市長は黙っていた!

市民からすると3億円であらうに3億円で売られていると電話があった。議会の議決なしに売られることはないと言った。まさかと思うことがこのようになってしまうことに不信感を覚える。

財団ならびに柏原市も市民が納得できる解決策を導き出さなければ前市長による数々の不透明な税金の使われ方に、市民の怒りに触れるかもしれない。前市長岡本氏の市政に対して一部8億円の税金を市立柏原病院につき込んで、高い医療機器の購入費、多くを占める人件費が問題となっており、医療従事者に対する報酬は理解できない。管理費は一般職員より給与は高額であり、任期が終われば退職金も支給される。素人判断しかないが市職員が兼任すれば報酬も安

財団と株式会社ダイナックの業務委託契約は当初は3年間、その後は1年延長更新しないときは6ヵ月前に通知したもので、今年の9月で、財団と株式会社ダイ



市立柏原病院の経営は毎年赤字である。さらに病院が負担する返済金も赤字の病院には支払う能力がない。柏原市は年間8億円以上の税金を市立柏原病院につき込んで、高い医療機器の購入費、多くを占める人件費が問題となっており、医療従事者に対する報酬は理解できない。管理費は一般職員より給与は高額であり、任期が終われば退職金も支給される。素人判断しかないが市職員が兼任すれば報酬も安

ほかにも経営危機! 市立柏原病院も

ナックの業務委託契約は解約される。市と財団との賃貸借契約は解約(疑問に?)の承認後、議会に報告された。

※4月17日サンヒル柏原新規運営事業者の選定等についての説明会開催

※4月17日庁舎及び病院の今後のあり方について説明会開催。